

プログラム履修者名を記入

評価表は1回につき1枚を使用します。評価が終わるとファイリングして振り返りができるようにしてください

氏名: _____ 評価日: _____ No. 1 - (評価は必ず実施してください)

1. プロフェッショナリズムの養成

到達目標	医療人として正しい倫理観を身につける 患者および他の医療従事者 的に関わり、必要に応じて適切な 支援を行うと共に、積極的に 医療者間の連携を図る。
	まだ研修を開始していないセクションは 研修開始後に評価表を作成してください

達成状況評価

<到達度>	<到達度の評価方法>
0. まだ履修していない(未実施) 1. 観察・聴取した(観音が分かる) 2. 説明できる(理解している) 3. 補助的に行うことができる(指示のもと動ける) 4. 1人で基本的なことができる(監督下にて基本的な) 5. 1人で様々なことができる(通常の業務に1人で) 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応でき) 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができ)	プログラム履修者に、該当する評価項目に 到達度の基準 記号を記入 した場合は全 ての項目に

プログラム履修者は
到達度を参照しながら、
現在の到達度に○をつけください

指導者は、達成度を参照しながら、
プログラム履修者の現在の達成度を
記載し、確認印を押してください

達成度評価項目	自己評価							指導者		
	C	1	2	3	4	5	6	7	到達度 評価	評価者 印
1 常に医療人としての責任を、身だしなみ、言葉遣い、挨拶 ができる			○					☆	1	
2 研修で定められている医療安全のルールを理解し、それに基づいて行動できる								☆		
3 研修で定められている感染対策のルールを理解し、それに基づいて行動できる								☆		
4 緊急時の対応について説明できる								☆		
5 患者情報が開示する対応ができる								☆		
6 患者情報を適切に取り扱える								☆		
7 常に新しい情報を収集し、								☆		
8 業務上の問題点を把握に努めている								☆		
9 業務上の問題点に対して改善案の立案に努めている								☆		
10 プログラム履修者は、評価時の自己評価について振り返りを行った内容を記載してください								☆		
11 評価表の内容は定期的に研修統括者が確認してください								☆		

研修終了時に全てのセクションで
達成度が0の項目がないように、実習
内容を適宜アレンジしてください

研修終了時の目標値を☆で示して
います。到達度の目標例にして
ください

プログラム履修者は、評価時の
自己評価について振り返りを行っ
た内容を記載してください

評価表の内容は定期的に研修
統括者が確認してください

自己評価(達成状況 状況変化 その他特記すべき事項)

評価者からのフィードバック

到達度を評価した方は、適宜
フィードバックを記載し、成長を
促してください

研修統括者
確認印

山口県病院薬剤師 卒後研修プログラム 達成度評価表

氏名:

評価日:

No. 1 -
(評価日ごとに更新してください)

1. プロフェッショナルリズムの養成	
到達目標	医療人として正しい倫理観を身につける。
	患者および他の医療従事者と円滑なコミュニケーションを行い、必要な情報の収集や提供を行うと共に、積極的に医療者間および患者間の関係を構築できる。
	病院で定められている医療安全および感染管理のルールを理解し、実践できる。
	日々の医療の発展に対して関心を持ち、医療に関する最新情報を常に収集できる。
	業務上の問題点を発見する視点を持ち、薬剤関連の業務改善を提案できる。
	常に研究マインドを持ち、業務や臨床におけるリサーチクエストンに対する解決策やエビデンスの創出ができる。

達成状況評価

<到達度>

0. まだ履修していない(未実施)
1. 観察・聴講した(概要が分かる)
2. 説明できる(理解している)
3. 補助的に行うことができる(指示のもと動ける)
4. 1人で基本的なことができる(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
5. 1人で様々なことができる(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

プログラム履修者は、該当する評価項目について、その到達点を左記の8段階の基準で自己評定し、到達点を自己評価する。研修指導者は評価時の能力評価点を記載し、フィードバックを行う。研修終了時には全ての評価項目を履修していること。

☆: 目標到達値

達成度評価項目	自己評価								研修指導者	
	0	1	2	3	4	5	6	7	到達度評価	評価者印
1 常に医療人としてのふさわしい、身だしなみ、言葉遣い、挨拶ができる								☆		
2 様々な立場を理解し、責任のある行動をとることができる								☆		
3 患者や同僚のスタッフ、他の医療スタッフに敬意をもって接することができる								☆		
4 指導者や同僚のスタッフ、他の医療スタッフに対する報告、連絡、相談を行う								☆		
5 病院で定められている医療安全のルールを理解し、それに基づいて行動できる								☆		
6 病院で定められている感染対策のルールを理解し、それに基づいて行動できる								☆		
7 災害発生時に適切な対応ができる				☆						
8 薬剤師が関与する診療報酬制度に立脚した業務を実施する					☆					
9 患者情報を適切に取り扱うことができる								☆		
10 常に新しい情報を収集し、活用している						☆				
11 業務上の問題点の把握に努めている					☆					
12 業務上の問題点に対して改善案の立案に努めている				☆						
13 生涯にわたって共に学ぶ姿勢でいる						☆				
14 研究マインドをもち、リサーチクエストンを立案し、解決のための研究を実施できる				☆						

自己評価(達成状況、状況変化、その他特記すべき事項)
評価者からのフィードバック

研修統括者
確認印

山口県病院薬剤師 卒後研修プログラム 達成度評価表

氏名:

評価日:

No. 2 -
(評価日ごとに更新してください)

2. 調剤、処方監査、医薬品管理	
到達目標	処方箋の記載内容を理解し、正しく調剤業務を行うことができる。
	処方箋内容および薬物療法の妥当性を理解し、正しく鑑査業務を行うことができる。
	用法用量や剤型等の妥当性評価等に基づき疑義照会を行い、適切な薬物療法が提供できる。
	患者背景を把握したうえで、薬学的知見に基づく必要な情報を患者に提供し、服薬に関する指導ができる。
	施設の医療体制と医薬品の供給体制を理解し、適切な在庫管理ができる。
	医薬品管理に関する各種法制度を理解し、特別な管理を有する医薬品を適切に管理できる。

達成状況評価

<到達度>
 0. まだ履修していない(未実施)
 1. 観察・聴講した(概要が分かる)
 2. 説明できる(理解している)
 3. 補助的に行うことができる(指示のもと動ける)
 4. 1人で基本的なことができる(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>
 プログラム履修者は、該当する評価項目について、その到達点を左記の8段階の基準で自己評定し、到達点を自己評価する。
 研修指導者は評価時の能力評価点を記載し、フィードバックを行う。研修終了時には全ての評価項目を履修していること。
 ☆:目標到達値

達成度評価項目	自己評価							研修指導者		
	0	1	2	3	4	5	6	7	到達度評価	評価者印
1 処方せんの記載事項を確認できる								☆		
2 内服計数調剤が実践できる								☆		
3 散剤の調剤が実践できる								☆		
4 外用剤の調剤が実践できる								☆		
5 水剤の調剤が実践できる								☆		
6 調剤の鑑査が実践できる								☆		
7 注射の鑑査が実践できる								☆		
8 内服薬の粉碎や懸濁方法、注射薬の配合変化について情報収集ができ、適切な投与方を提案できる								☆		
9 調剤機器の取り扱いができる								☆		
10 処方内容を評価し、疑義照会ができる								☆		
11 窓口で服薬の指導ができる								☆		
12 電子カルテおよび部門システムが理解でき、利用できる						☆				
13 適正在庫に基づいた医薬品の発注が実践できる					☆					
14 院内他部署の医薬品管理ができる					☆					
15 麻薬の管理ができる						☆				
16 毒薬の管理ができる						☆				
17 向精神薬の管理ができる						☆				
18 覚醒剤原料の管理ができる						☆				
19 特定生物由来製品の管理ができる						☆				

自己評価(達成状況、状況変化、その他特記すべき事項)

評価者からのフィードバック

研修統括者
確認印

山口県病院薬剤師 卒後研修プログラム 達成度評価表

氏名:

評価日:

No. 3 -
(評価日ごとに更新してください)

3. 入院・外来の薬物治療管理	
到達目標	入院前から退院後までの流れを理解し、カルテやベッドサイドでの面談を通して必要な情報を収集・評価し、服薬指導ができる。
	入院患者の持参薬鑑別を行い、適切な服薬計画を立案し、医師に提案できる。
	疾患の病態生理や臨床検査値の意味を理解したうえで、薬物治療の効果および有害事象をモニタリングし、患者の状況に応じた適切な処方提案ができる。
	回診や多職種が集まるカンファレンスなどのチーム医療の中で、薬学的視点に基づき情報提供を行い、患者の薬物治療に貢献できる。
	退院後の連携を見据え、必要な情報を評価し、退院時に適切な情報提供ができる。
	周術期における薬物治療管理ができる。

達成状況評価

- <到達度>
0. まだ履修していない(未実施)
 1. 観察・聴講した(概要が分かる)
 2. 説明できる(理解している)
 3. 補助的に行うことができる(指示のもと動ける)
 4. 1人で基本的なことができる(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

プログラム履修者は、該当する評価項目について、その到達点を左記の8段階の基準で自己評定し、到達点を自己評価する。研修指導者は評価時の能力評価点を記載し、フィードバックを行う。研修終了時には全ての評価項目を履修していること。

☆:目標到達値

達成度評価項目	自己評価								研修指導者	
	0	1	2	3	4	5	6	7	到達度評価	評価者印
1 手術や検査時の使用薬を含め、内服薬、外用薬、注射薬の実施状況が把握できる						☆				
2 患者、生活者に対して薬剤管理指導業務ができる						☆				
3 ハイリスク薬を含む薬物治療に係る服薬指導ができる						☆				
4 吸入器等の医療デバイスの取り扱いが理解でき、使用方法を指導できる						☆				
5 患者への指導内容について、適切な評価、記録(SOAP形式)の記載が実践できる						☆				
6 持参薬を鑑別し、適切な服薬計画の立案ができる						☆				
7 医薬品を中心とした相互作用を確認することができる						☆				
8 種々の情報源から薬物療法に必要な情報を収集できる						☆				
9 様々な情報源を確認し、処方の妥当性について評価し、医師に対して処方変更を含めて処方提案ができる					☆					
10 効果と副作用をモニタリングするための項目を列挙できる						☆				
11 臨床検査値の変化と使用している医薬品の関連性について評価ができる					☆					
12 薬物治療の効果、副作用の発現について患者の症状や検査所見から評価ができる					☆					
13 チーム医療を実践し、チームにおける薬剤師の役割を理解して行動できる					☆					
14 チーム医療の中で、医師や看護師等と連携しながら、薬物治療上の問題点解決のための情報を共有し、患者の治療に貢献できる					☆					
15 退院時に適切な情報提供ができる						☆				
16 周術期における薬物治療管理ができる					☆					

自己評価(達成状況、状況変化、その他特記すべき事項)

評価者からのフィードバック

研修統括者
確認印

山口県病院薬剤師 卒後研修プログラム 達成度評価表

氏名:

評価日:

No. 4 -
(評価日ごとに更新してください)

4. 無菌調製、院内製剤、DI、TDM

到達目標	無菌製剤の調製方法を理解したうえで、適切に無菌調製ができる。
	安全キャビネットを用いて抗がん薬を適切に調製でき、がん化学療法におけるレジメンを理解し、適切に管理・運用ができる。
	院内製剤使用時の手続きや品質管理について理解し、適切に調製できる。
	各種医薬品情報源の特性を理解し、必要な医薬品情報を収集、評価し、適切に情報提供ができる。
	薬物治療時に関与したブリアボイド症例や有害事象症例が報告できる。
	患者背景や腎機能・肝機能などの生理機能に基づいた薬物療法の最適化ができる。
	TDMの基本業務を理解し、薬物特性と患者個々の状態に適した薬学的管理を理解し指導者監督下に投与設計・処方提案ができる。
	治験の基本的業務を理解し、治験責任医師やCRC等と連携ができる。

達成状況評価

- <到達度>
0. まだ履修していない(未実施)
 1. 観察・聴講した (概要が分かる)
 2. 説明できる (理解している)
 3. 補助的に行うことができる (指示のもと動ける)
 4. 1人で基本的なことができる(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

プログラム履修者は、該当する評価項目について、その到達点を左記の8段階の基準で自己評価し、到達点を自己評価する。研修指導者は評価時の能力評価点を記載し、フィードバックを行う。研修終了時には全ての評価項目を履修していること。

☆: 目標到達値

達成度評価項目	自己評価								研修指導者	
	0	1	2	3	4	5	6	7	到達度評価	評価者印
1 無菌調製に必要な準備ができ、無菌調製ができる					☆					
2 無菌製剤の監査ができる					☆					
3 抗がん薬曝露対策(安全キャビネット、防護具、閉鎖式接続器具)を実践できる					☆					
4 抗がん薬を調製することができる					☆					
5 レジメンの治療スケジュールや支持療法を理解し、監査することができる					☆					
6 がん化学療法における必要な支持療法薬を選択し、医師へ提案することができる				☆						
7 抗がん薬の減量や延期の必要性について評価し、医師と協議することができる				☆						
8 院内製剤の種類、患者同意を含めた調製上の正しい手続きが実施できる			☆							
9 院内製剤のクラス分類に基づき適切に調製できる					☆					
10 院内で使用可能な医薬品情報源の特徴を理解し、適切に使用できる					☆					
11 医薬品情報要約(DIニュース等)を作成できる				☆						
12 処方・注射オーダーのチェックシステム(マスタ)を作成・更新できる			☆							
13 ブリアボイド症例や有害事象症例を報告できる					☆					
14 施設内の医薬品採用/緊急(臨時)採用の手順に基づき対応できる				☆						
15 TDMの意義及び一般的な対象薬を理解し、TDMソフトウェアを扱うことができる				☆						
16 自院でのTDM業務の流れ(オーダー、採血、測定、解析、治療へのフィードバックなど)に基づきTDM業務ができる				☆						
17 使用頻度の高いTDM対象薬剤の初回投与量・維持投与量の算出・処方提案ができる				☆						
18 血中濃度に影響を与える因子を評価し、適切な投与量設計ができる				☆						
19 肝機能・腎機能低下時における薬物動態と、薬物治療・投与設計時に注意すべき点を考慮した薬学的管理を実践できる				☆						
20 治験における薬剤師の業務を実施できる			☆							

自己評価(達成状況、状況変化、その他特記すべき事項)

評価者からのフィードバック

研修統括者 確認印

氏名:

評価日:

No. 5 -
(評価日ごとに更新してください)

5. 主要病態および特殊患者の薬物治療管理

到達目標	がんの薬物治療管理を経験し、その特徴や注意点に基づき適切な薬物治療管理ができる
	感染症の薬物治療管理を経験し、その特徴や注意点に基づき適切な薬物治療管理ができる
	循環器系疾患の薬物治療管理を経験し、その特徴や注意点に基づき適切な薬物治療管理ができる
	代謝・内分泌系疾患の薬物治療管理を経験し、その特徴や注意点に基づき適切な薬物治療管理ができる
	慢性腎臓病・透析患者の薬物治療管理を経験し、その特徴や注意点に基づき適切な薬物治療管理ができる
	小児患者の薬物治療管理を経験し、その特徴や注意点に基づき適切な薬物治療管理ができる
	妊婦・授乳婦の薬物治療管理を経験し、その特徴や注意点に基づき適切な薬物治療管理ができる
	高齢者の薬物治療管理を経験し、その特徴や注意点に基づき適切な薬物治療管理ができる
	集中治療を有する重症患者の薬物治療管理を経験し、その特徴や注意点に基づき適切な薬物治療管理ができる

達成状況評価

- <到達度>
0. まだ履修していない(未実施)
 1. 観察・聴講した(概要が分かる)
 2. 説明できる(理解している)
 3. 補助的に行うことができる(指示のもと動ける)
 4. 1人で基本的なことができる(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
 5. 1人で様々なことができる(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
 6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
 7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

プログラム履修者は、該当する評価項目について、その到達点を左記の8段階の基準で自己評定し、到達点を自己評価する。
 研修指導者は評価時の能力評価点を記載し、フィードバックを行う。研修終了時には全ての評価項目を履修していること。
 ☆:目標到達値

達成度評価項目	自己評価								研修指導者	
	0	1	2	3	4	5	6	7	到達度評価	評価者印
1 疾患に応じた最新のガイドラインを参照し、薬物療法を評価することができる					☆					
2 がんの薬物治療管理を経験し、服薬指導ができる					☆					
3 がん薬物治療の副作用モニタリングができ、必要に応じて処方提案ができる					☆					
4 緩和医療における薬物治療管理を経験し、服薬指導ができる					☆					
5 抗菌薬のスペクトルに基づき適切な抗菌薬が選択できる					☆					
6 感染症を引き起こす代表的な細菌の特徴に基づき適切な抗菌薬が選択できる					☆					
7 感染症の原則を理解し、適切な抗菌薬選択を提案できる					☆					
8 循環器系疾患の薬物治療管理を経験し、適切な薬物治療管理ができる					☆					
9 糖尿病の薬物治療管理を経験し、服薬指導ができる					☆					
10 各糖尿病治療薬の特徴を理解し、副作用モニタリングができる					☆					
11 慢性腎臓病患者の特徴を理解し、適切な薬物投与設計ができる					☆					
12 透析の種類を理解し、透析条件に合わせた薬物投与設計ができる					☆					
13 小児患者の特徴を理解し、適切な薬物投与設計ができる				☆						
14 患児の性格を理解し、患児にあわせた服薬指導ができる				☆						
15 妊婦・授乳婦の特徴を理解し、適切な薬物治療管理ができる				☆						
16 妊婦・授乳婦に対する薬物投与可否を判断できる				☆						
17 高齢者やフレイル・寝たきり患者の特徴を理解し、適切な薬物投与設計ができる				☆						
18 ポリファーマシーを評価し、適切な減薬の提案ができる				☆						
19 集中治療における病態、薬学的管理体制の特徴を理解し、適切な薬物投与設計ができる				☆						

自己評価(達成状況、状況変化、その他特記すべき事項)

評価者からのフィードバック

研修統括者
確認印

山口県病院薬剤師 卒後研修プログラム 達成度評価表

氏名:

評価日:

No. 6 -
(評価日ごとに更新してください)

6. 地域における保険薬局の役割

到達目標	薬局の業務やこれから求められる薬局の機能について理解し、適切な業務ができる。
	薬学的管理に必要な患者の情報を保険薬局と共有することができる。
	地域の医療従事者を対象とした研修会等へ参加し他職種との意見交換できる
	在宅医療における薬剤師や他職種の役割を理解し、訪問薬剤管理指導業務が実践できる。
	在宅医療における問題点を把握し、医師に改善案を提案できる。
	バイタルサインをチェックすることができ、そこから得た情報を薬学的管理に活かすことができる。

達成状況評価

<到達度>

0. まだ履修していない(未実施)
1. 観察・聴講した(概要が分かる)
2. 説明できる(理解している)
3. 補助的に行うことができる(指示のもと動ける)
4. 1人で基本的なことができる(監督下にて基本的な業務が遂行できる)
5. 1人で様々なことができる(一通りの業務を1人で適切に遂行できる)
6. 経験豊富に行える(問題発生時に適切に対応できる)
7. 指導ができる(指導ができ、より多くの業務ができる)

<到達度の評価方法>

プログラム履修者は、該当する評価項目について、その到達点を左記の8段階の基準で自己評定し、到達点を自己評価する。研修指導者は評価時の能力評価点を記載し、フィードバックを行う。研修修了時には全ての評価項目を履修していること。

☆:目標到達値

達成度評価項目	自己評価								研修指導者	
	0	1	2	3	4	5	6	7	到達度評価	評価者印
1 保険薬局における対物業務と対人業務を理解し、適切な業務ができる				☆						
2 かかりつけ薬剤師や健康サポート薬局の役割について理解し、適切な患者対応ができる				☆						
3 認定薬局制度について理解し、薬局の機能に応じた連携が取れる				☆						
4 トレーシングレポート等を用いて、保険薬局と双方向の情報共有ができる				☆						
5 薬局薬剤師等の他職種が参加する研修会等に参加し意見交換ができる				☆						
6 在宅医療における薬剤師や他職種の役割を理解し、行動できる				☆						
7 在宅医療における薬学的管理の問題点を抽出し、医師に処方提案できる				☆						
8 在宅医療の現場で患者が抱える問題点を抽出できる				☆						
9 ポリファーマシーを把握し、薬学的評価に基づき減薬の提案ができる。				☆						
10 バイタルサインの情報に基づき薬学的管理が実施できる			☆							

自己評価(達成状況、状況変化、その他特記すべき事項)

評価者からのフィードバック

研修統括者
確認印

--